

## 水と文化／東京・大阪・中京圏

今年から、「山の日」が新たな国民の休日として施行される他、東京都では「水の都」の再興を掲げ、交通手段としての「舟運」の定着を目指した取り組みを始めるなど、水や自然と文化を取り巻く環境に新たなトピックが見られています。そこで今回、昨年初めて調査を行った「外国人に紹介したい水とかかわりの深い日本の文化」に加え、それらのトピックに関連した意識・実態を探る設問を追加しました。

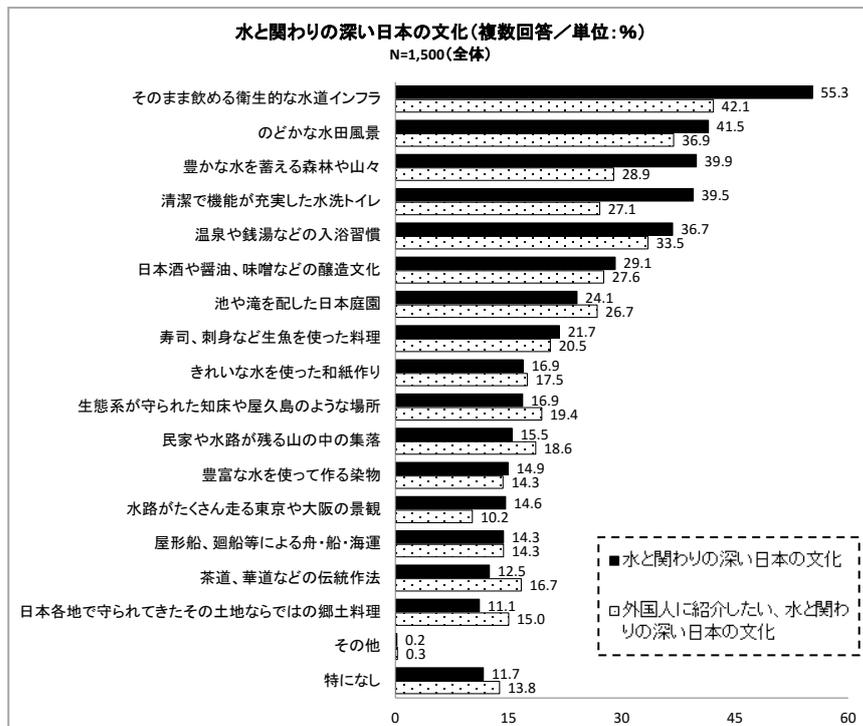
### Q.水と関わりの深い日本の文化は？（16択＋その他＋特になし）

### Q.外国人に紹介したい「水と関わりの深い日本の文化」は？（16択＋その他＋特になし）

◇昨年に続き、ともに1位は「そのまま飲める水道インフラ」

「水と関わりの深い日本の文化」について、昨年同様の選択肢に「清潔で機能が充実した水洗トイレ」を新たに追加して聞いたところ、1～3位は昨年と同様の結果で、「水洗トイレ」は39.5%で4位に入りました。

また、上記と同様の選択肢で聞いた「外国人に紹介したい水と関わりの深い日本の文化」も、1位は昨年に続き「水道インフラ」となり、「水洗トイレ」(27.1%)は6位でした。

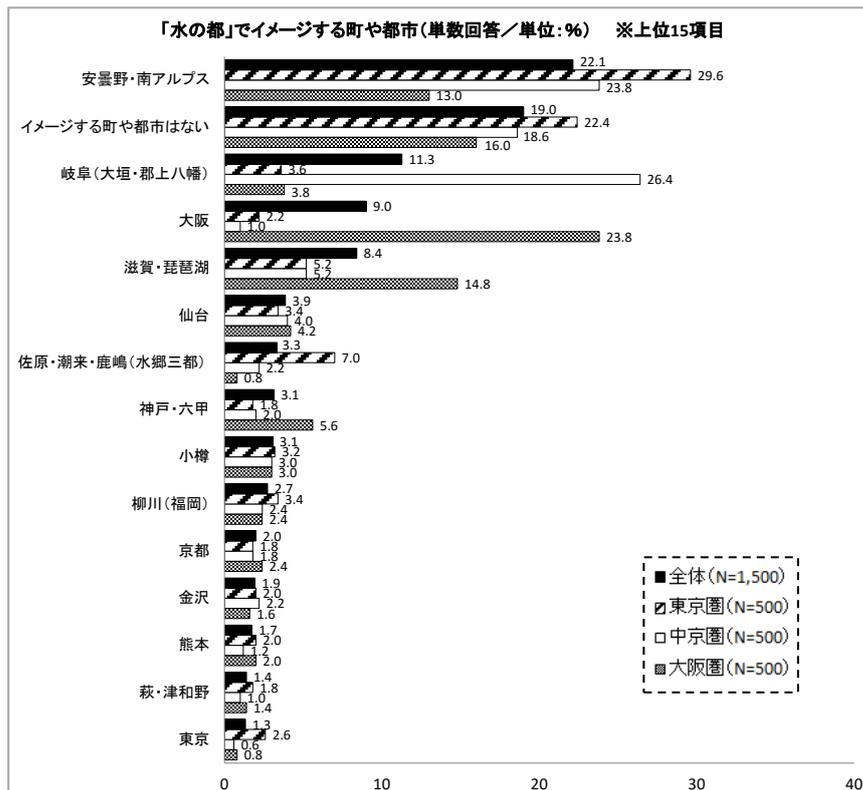


### Q.「水の都」に最も近いイメージの町や都市は？（22択＋その他＋ない）

◇1位は「安曇野・南アルプス」

今回、イメージする「水の都」について、あらかじめ選択肢を提示し、調査を行いました。結果は、「安曇野・南アルプス」が22.1%で全体のトップでした。

居住地別にみると、中京圏と大阪圏の1位は、それぞれ「大垣・郡上八幡」(26.4%)、「大阪」(23.8%)と、各エリアに該当する町・都市が選ばれましたが、東京圏の1位は「安曇野・南アルプス」(29.6%)で、「東京」(2.6%)は9位(全体では1.3%で14位)でした。かつては水都としての賑わいを見せ、近年では周遊クルーズなども盛んになってきた東京ですが、「水の都」としての認知はあまり得られていないようです。



## Q.舟運を利用したことはあるか？（2択）

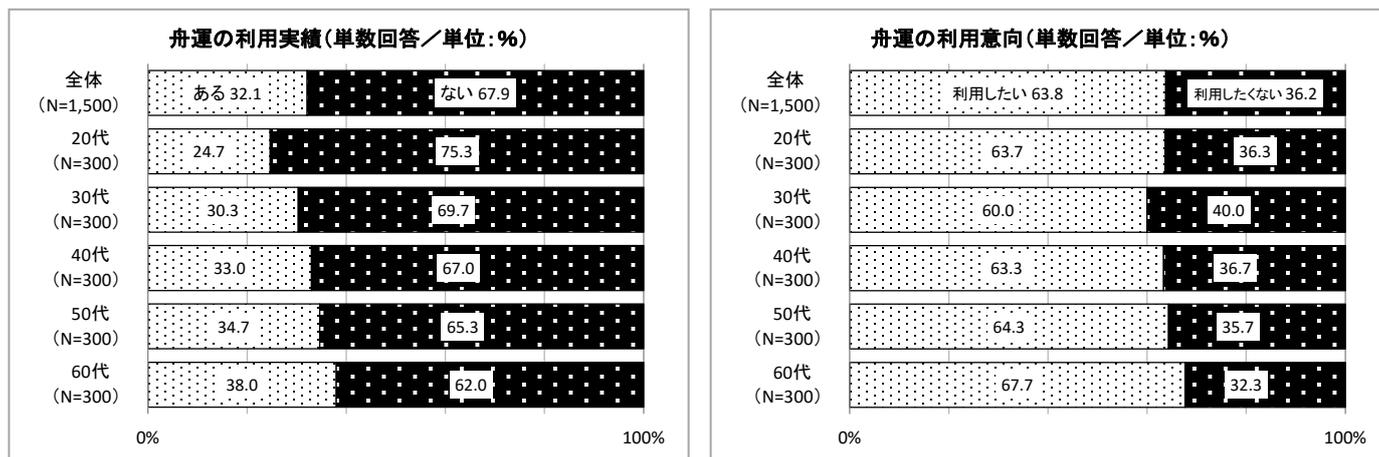
## Q.舟運を利用したいと思うか？（2択）

◇舟運を利用したことが「ある」人が約3割。世代間で格差あり

◇6割超が舟運を「利用したい」

日常生活や観光における交通手段の一つとして、これまでに舟運を利用したことがあるかを尋ねたところ、32.1%が「ある」と回答。年代別では60代の38.0%が最も高く、最も低かった20代(24.7%)と13.3ポイントの差がありました。

次に、利用経験の有無にかかわらず、今後舟運を利用したいかを尋ねると、「利用したい」は63.8%と、高い意向を示しました。こちらは、各年代とも60%台で、大きな差異は見られませんでした。



## Q.知っている祝日・記念日は？（8択+ない）

◇3人に2人程度が「山の日」を知らない

今年から「山の日」が新たな祝日として加わることにちなんで、水や自然にかかわる祝日・記念日の認知度を探ることを目的に調査を行ったところ、認知率の高かった上位3項目は「みどりの日(5月4日)」(82.6%)、「海の日(7月第3月曜日)」(77.1%)、「防災の日(9月1日)」(46.7%)となり、祝日ではない記念日としては唯一、「防災の日」が上位に入りました。「山の日(8月11日)」は、36.7%にとどまりました。以下、「川の日(7月7日)」(4.3%)、「水の日(8月1日)」(2.9%)、「津波防災の日(11月5日)」(1.6%)、「下水道の日(9月10日)」(1.0%)は、いずれも1桁台の認知率でした。

